

### 紀州材の活用

**問** 県道南紀白浜空港線の紀州材を用いたガードレール整備状況や、今後の展開について伺う。

**答** 南紀白浜空港線では、老朽化したガードレールを木製ガードレールに更新する工事を進めており、約1.3kmが完了しました。

そのほか、高野山周辺の国道370号や西有田県立自然公園内の県道有田湯浅線などにおいても木製ガードレールの設置を進めており、引き続き、紀州材を活用した木製ガードレールの整備を推進します。



### 県ごとも計画の策定

**問** 県ごとも計画の策定に際し、県ごともから意見を聴く仕組みについて伺う。

**答** 県では、令和7年度から5年間の計画期間と定め、策定に当たっては、子育ての意識調査などのほかにも、子どもや若者、子育て当事者の方々から直接意見を伺う機会を設ける予定です。

子どもからの意見聴取は特に重要と考えており、県ごとも計画だけでなく、子どもに関する施策を今後展開する際には、子どもから意見を聴き、その意見を反映できるような仕組みを作っていきます。

### 本県農業の発展

**問** 収益性の高い農業を実現するための県の取組について伺う。

**答** 県では、生産と経営の両面で農家を支援しており、生産面では、園内道整備やスマート農業、高度な環境制御システムを導入、県オリジナル品種の早期産地化などの取組を支援しています。

経営面では、農地中間管理機構による農地の斡旋をはじめ、農業法人設立につながる協業化や、経営体の大規模化を図るための機械施設の導入など総合的な支援を実施しています。今後とも、収益性の高い農業を実践する強い経営体を育成します。

### 子どもたちの生活習慣の確立

**問** 「早ね早おき・朝ごはん運動」の、今後の取組について伺う。

**答** この運動は、規則正しい生活習慣を身に付ける効果的な取組と考えています。

しかしながら、昨今、子どもたちの生活リズムを乱す要因が増えていることから、今回改定したガイドブックでは、スマートフォン等の画面を見る時間がこどもの体力面に与える影響を示し、改善を促す内容を新たに盛り込むとともに、大人と子どもが会話しながら学べるような工夫を取り入れています。今後この運動を、学校、PTAなどの団体と連携し、家庭、地域へも広がっていきます。

### 宇宙産業の振興

**問** 宇宙関連企業等の誘致や、県内企業が宇宙関連事業に進出するための支援に取組むかどうか。

**答** 県では、成長産業集積の土台を築くため、「わかやま成長産業開拓ビジョン検討会」を設置し、誘致を目指す産業について議論しています。

宇宙産業は、市場の成長性やロケット射場がある本県との親和性が極めて高く、今後の和歌山を担う成長産業と捉えています。今後、ロケット打ち上げが恒常化すれば、製造工場や衛星データ活用ビジネス等の集積が期待できます。

さらに、観光産業の活性化、農林水産業の効率化なども期待されるため、宇宙関連企業誘致の条件や県の役割を整理し、全力で取り組めます。

### 災害時のドローン活用

**問** ドローンを活用した市町村の災害対応力を向上させるため、県では今後どのような支援を行うのか。

**答** 県では、災害時における市町村のドローンの活用促進を目的としたガイドラインを今年度作成します。さらに、令和6年度当初予算案では、市町村が災害対応に使用するドローンの機体導入費用や、職員の操縦資格取得費用などを対象とした補助金を計上しています。

このように技術的・財政的な支援を行うことで、ドローンを活用した市町村の災害対応力の向上を図っていきます。



### 木造住宅の耐震改修費の負担低減策

**問** 低コスト工法普及の取組状況はどうか。

**答** 天井や床を撤去せずに壁を補強するなどの低コスト工法の普及を図るため、事業者向けの講習会を実施するとともに、パンフレットを作成し、所有者へ周知を図ってきました。

さらに、一般の地震を受け、低コスト工法や補助制度などの更なる普及について、関係者と検討を開始し、建築士からは、「当該工法は工事費の低減や工期の短縮への効果が大い」との報告を受けており、その有効性を積極的に周知していきます。

### 災害時のドローン活用

小規模化により余裕のできた教室等を活用して、特色ある特別支援学校を設置し、高等学校と特別支援学校を一つの学校として運用することは、有意義な方策と考えています。

### 観光振興の取組

**問** 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録20周年を契機とした取組について伺う。

**答** 世界遺産登録月である7月から、鉄道事業者とタイアップした誘客キャンペーンや、熊野古道リレーウォーク等の特別イベントを予定しています。また、世界遺産エリアのみならず、県内全域で一体となって国内外からの誘客に努めます。

これらの取組により「聖地リゾー」と和歌山の魅力を発信し、心と体を癒やす、何度も訪れたくなる場所というイメージを定着させていきます。

### 災害時に活用できる井戸の整備

**問** 災害時、避難所において生活用水の不足が予想されるが、新たな井戸の整備を支援してはどうか。

**答** 災害時の避難所において重要であり、緊急用の水源として、井戸等を整備することが有効です。

県では、避難所において井戸の整備を進める市町村に対して、わかやま防災力パワーアップ補助金により財政支援を行っています。

今後、井戸等の整備により、避難生活に欠かせない生活用水の確保を図るため、市町村を支援していきます。

### 県営射撃場の整備

**問** 射撃場の整備について、知事の所見を伺う。

**答** 射撃場の建設については、建設費の増高が見込まれる中「事業費が適正かどうか」、赤字に陥ることなく「財政的に健全な運営ができるかどうか」、「市町村の積極的な協力、住民理解があるかどうか」という条件をクリアした場合、進めることとします。

このほか、事業効果、コストなどに加え、他の射撃場との関係も踏まえながら、総合的に検討していきます。

### スポーツ健康科学に特化した学校の必要性

**問** 和歌山北高校西校舎と和歌山さくら支援学校を一体化し、スポーツ健康科学に特化した新たな学校が必要と考えるが、知事の所見を伺う。

**答** スポーツ健康科学の学びの充実も含め、高等学校と特別支援学校、双方の長所を生かす教育が新たに創造されることを強く期待しています。今後、一部の県立高等学校で

### 学校部活動の地域連携・地域移行

**問** 中学校における部活動の地域連携・地域移行の取組状況について伺う。

**答** 県内における中学生のスポーツ・文化芸術活動の機会については、地域クラブでの活動、地域の人材を活用した地域連携による学校部活動、従来どおりの学校部活動が混在している状況にあります。

今後、地域クラブへの移行を目標としつつ、各市町村が中心となって協議する場を設置し、まずは休日の学校部活動を地域